

過去の診療情報を利用した臨床研究について

2023年4月10日

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめるものです。この案内をお読みになり、ご自身がこの研究の対象者にあたると思われる方の中で、ご質問がある場合、またはこの研究に「自分の情報を使ってほしくない」とお思いになりましたら、遠慮なく下記の担当者までご連絡ください。

【対象となる方】

2007年1月～2015年12月に肝硬変による合併症(難治性腹水、食道静脈瘤、肝性脳症、門脈血栓症、低栄養など)のために虎の門病院あるいは虎の門病院分院に入院された方
目標症例数：2500例(本院1000例、分院1500例)

【研究課題名】

「肝硬変の包括的なマネジメントに関する検討」

【単独・多施設】

虎の門病院と虎の門病院分院の多施設共同研究

【虎の門病院における研究責任者】

虎の門病院 肝臓内科・医長 齋藤 聡

【虎の門病院分院における研究責任者】

虎の門病院分院 肝臓内科・医長 齋藤 聡

【研究代表者】

虎の門病院分院 肝臓内科・医長 齋藤 聡

【研究の目的】

肝硬変には難治性腹水、食道静脈瘤、肝性脳症、門脈血栓症、低栄養などの様々な合併症を伴います。B型肝炎、C型肝炎ともに抗ウイルス療法が進歩しているとはいえ、予後の改善につながっているかどうかは不明であります。そこで各種合併症に対する治療、再発、予後についてレトロスペクティブ(過去の診療情報を調査する研究)に検討します。

【利用するカルテ情報】

診断名、年齢、性別、身長、体重、既往歴、血液検査、画像検査、治療経過など

【研究期間】

2016年3月29日～2023年12月31日

【個人情報の取り扱い】

お名前、住所などの個人を特定する情報につきましては厳重に管理を行い、学会や学術雑誌等で公表する際には、個人が特定できないような形で使用いたします。また、本研究に関わる記録・資料は研究終了後5年間保存いたします。

【研究の方法等に関する資料の閲覧について】

希望される方には個人情報、知的財産権の保護等に支障がない範囲内に限られますが研究の方法の詳細に関する資料を閲覧することができます。

【問合せ先】

本研究に関する質問、お問い合わせがある場合、または御自身の診療情報につき、開示または訂正のご希望がある場合には、下記までお問い合わせください。

ご自身の情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象としませんので、平成28年6月30日までの間に下記の連絡先までお申出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様には不利益が生じることはありません。

【相談窓口】

虎の門病院 肝臓内科 斎藤 聡、鈴木 文孝、鈴木 義之、荒瀬 康司、芥田 憲夫、
保坂 哲也、瀬崎 ひとみ、川村 祐介、藤山 俊一郎、熊田 博光
電話 03-3588-1111(代)

虎の門病院分院 肝臓内科 斎藤 聡、鈴木 文孝、鈴木 義之、荒瀬 康司、芥田 憲夫、
保坂 哲也、瀬崎 ひとみ、川村 祐介、藤山 俊一郎、熊田 博光
電話 044-877-5111(代)